

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 飯山市立飯山小学校

① 学習指導案

プログラム	No.8 「わたしたちのまちに言葉の贈りもの」
単元名 (全48時間中の 9時間)	社会科・総合的な学習の時間 「わたしたちのまち みんなのまち⑩」「飯山探検隊⑫」「飯山ってどんなところ⑭」
学習のねらい	学校まわりの様子、学区の様子、飯山市の様子を自分の目で見てくる中で好きになった場所やお気に入りの場所を、学校の友達や家の人、地域の人に紹介したいと考えた子どもたちが、その場所を紹介するためにふさわしい表現を考え、写真に書き添えていくことができる。
学習内容	1 学校まわりの様子、学区の様子、飯山市の様子を自分の目で見てくる中で好きになった場所やお気に入りの場所の中から、紹介したい場所を決める。 2 その場所を紹介するためにふさわしい表現を考える。 3 写真に考えた表現を毛筆で書き添える。 4 お互いに見合ったり、学校の友達や家の人、地域の人に紹介したりして伝えていく。
参考資料 準備品 実施場所等	・好きな場所、お気に入りの場所の写真は、子どもたちが一人一台端末タブレットで撮影したり、担任が撮影したものなどから選んだりして決めていけるようにする。 ・紹介するための言葉は、児童の一人一台端末タブレットにあるアプリを使い、写真を取り込み書いていく。

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	1. 探検する中で、好きになった場所やお気に入りの場所の中から、紹介したい場所を決める。	・飯山のたくさんの場所を見てきたことを想起できるように、これまでの探検の様子の写真を提示したり、一人ひとりの学習プリントを振り返ったりする場を設ける。	・自分が好きだ、いいなと言えるふるさと飯山の場所を決めることができる
3	2. その場所を紹介するための写真を選び、その場所にふさわしい表現を考える。	・活動の見通しが持てるように、教師の作成した「写真手紙」を提示し、教師がどんな考えや思いで作ったのかを伝える。	・自分の感じたその場所のよさを、伝えたいことや言葉のリズムをもとに考え、表現するこ

		・その場所のよさが伝わる写真を選ぶように、自分が撮影した写真の他に教師が集めた写真を用意しておく。 ・その場所のよさが伝わるように一番伝えたいことをはっきりさせることをアドバイスする。 ・言葉のリズムのよさを生かしながらかえていくことができるように、五七五調をもとにした表現方法について紹介する。	とができる。
3	3. 一人一台端末タブレットのアプリを使って、写真手紙を仕上げる。	・納得のできる「写真手紙」となるように、試し書きや書き直しができるように紙や写真をたくさん用意しておく。 ・自分の思いがより伝わるようなレイアウトとなるように、使う写真の大きさや配置を変えてみるよう助言する。 ・友だちの「写真手紙」のよさに気づいたり、取り入れたりできるように、できあがった作品を掲示していつでも見ることができる場を設定していく。	・紹介したい場所について自分で選んだ写真に、自分で考えた表現を添えて「写真手紙」を仕上げることができる。
2	4. お互いに見合ったり、学校の友達や家の人、地域の人に紹介したりして伝えていく。	・自分の選んだ場所について、言葉で伝えていくことができるように、発表する場を設ける。 ・見た人からの感想をもらえるように、「写真手紙」に感想を書ける掲示コーナーを設ける。	・「写真手紙」を掲示したり、「写真手紙」を見せながら発表したりすることで、飯山のよさを伝えることができる。

<留意点>

- ・活動後は、一人ひとりの「写真手紙」を学級としてまとめたものを、市の公共施設などに置いていただけるような依頼をし、多くの人の目にふれるような環境をすることで、子どもたちにとって自分たちのやってきたことに満足感を持てるようにしていく。

② 事業実施報告書詳細

学校名 飯山市立飯山小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
1	教室	探検する中で、好きになった場所やお気に入りの場所から、紹介したい場所を決める。		・市内巡り等で実際に訪れた場所の様子を楽しそうに思い出しながら決めていた。 ・心に残っている場所が複数あるという子もいた。
3	教室	その場所を紹介するための写真を選び、その場所にふさわしい表現を考える。		・同じ西大滝ダムの写真でも、美しい景色を伝えたいのか、大きさや迫力を伝えたいのか、学習した「魚道」のことを伝えたいのか等、自分が紹介したいことに沿った写真を選ぶことができた。 ・例えば、お弁当を食べている写真を選んだ子は、お弁当のおいしさを伝えることを考えていたが、「ふるさと飯山のよさを伝える」という観点から、もう一度考え直し、「北竜湖」という言葉を入れていた。

3	教室	タブレットのアプリを使用して、写真手紙を仕上げる。	 スキー場 今はないけど 跡はある 寺巡り 歴史がたぐさん あふれだす スキーをね 広めてくれて ありがとう 寺めぐり みんな笑顔で 一枚パンチャリ	・教師の手本を参考に、タブレットを上手に活用して、写真と言葉を合わせた作品にすることができた。 ・写真をトリミングして、特に伝えたい部分を拡大して見せるなど、相手意識をもって工夫する姿が見られた。 ・五七五を基本としたが、難しい場合は短い日記のような文を作った。
2	教室 掲示版	お互いに見合ったり、学校の友達や家の人、地域の人に紹介し合ったりして伝えていく。	 森の家 しぜんがあつて すばらしい 名前 遠望 けい 自然ゆたか 田んぼ広がる 綺麗なまち 名前 大谷 夢見 森の家 自然たんけん 楽しいな 名前 山本 けい 森の家 自然豊かで すてきだよ 名前 遠望 まな	・ロイロノートの共有機能の活用により、子どもたちは自ら作品を見合い、交流していた。 ・作品を校内に掲示すると、友だちの作品に興味深そうに見ていた。 ・「すばらしい」「楽しい」「すてき」といった言葉が入っている作品が多く、互いに見ながら、ふるさと飯山のよさを改めて感じながら、誇らしい気持ちになることができた。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

3学年の社会科は学区内の町の様子の学習から始まり、市全体の学習へと広がっていく。その学習を通して、地域（市）の良さや特色、歴史、課題などについて学ぶことになっている。点から線、線から面というように、総合的な学習の時間を使いながら、子どもたちの負担とならぬように学習活動が展開できるよう工夫した。1学期は学区内で「飯山探検隊」として、飯山駅を中心に商店街や寺巡りを数回に分けて実施した。2学期は「市内巡り」として飯山の特色ある場所（旧信濃平スキー場から見た3つの平と長峰丘陵、戸狩温泉スキー場の民宿街、温井上段と鍋倉山、岡山地区と西大滝ダム、小菅地区と北竜湖、木島の工業団地）を一日かけて見学した。実施した際は、後に写真で紹介することをふまえて、できるだけたくさんの写真を撮影するようにした。

3学期は、飯山の歴史およびその他の特色を探るため、ふるさと館、伝統産業会館、美術館、和紙体験工房、高橋まゆみ人形館を訪問した。また、学習のまとめとして、全員「ふるさと検定」を受検したのも工夫した点である。

このように、たくさんの施設を訪問することができたのは、飯山小学校が中心市街地に位置しているという立地的優位性がある。バスを利用せずとも、徒歩で目的地まで行けるといふ地の利を生かした学習展開としたことも、工夫の一つとして挙げられる。

(2) 実施にあたり苦労した点

- ・度重なる校外学習ということで、他教科の授業時数を確保することに苦慮した。本校の場合は、音楽や外国語などは専科教員が指導にあたっているため、専科教員の授業がある日は、社会科や総合の時間をまとめて確保することができない。そのため、校外学習を行える曜日が限られてくるので、その曜日にある教科の授業と入れ替える必要があった。その際、各教科の標準指導時間数を下回らないようにすることが苦労であった。
- ・本校の3年生は2クラスなので、全員で移動するとなるとバスを利用しなければならない。そのため、学区内の移動は徒歩で実施するようにした。

(3) 児童の反応

校外に出たの実地学習には、多くの子が意欲的に取り組むことができた。毎回準備した学習カードには、一人一人学んだことをしっかり記録していた。「飯山の良さを写真と俳句で伝える」という当初のめあては最後まで持続し、飯山のおすすめポイントを紹介するために市内巡りで見聞きしてきたことだけではなく、インターネットでも調べ、まだ開催前の「かまくら祭り」の写真を取り入れようとしている児童もいた。

今回の学習は毛筆で俳句作品を書くところまでは行きつかなかったが、タブレットでまとめた作品には、飯山の美しい景観、特色ある風景が取り入れられ、そこに、子どもたちのふるさとへの思いが俳句となって添えられている。

こんなに美しくて素敵なのところがたくさんある飯山。多くの児童がその良さに気づき、実感していることが作品からもわかる。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

地域素材を教材化するため事前に教材研究を行ったが、それで得た知識は担当教諭だけの

ものにするのではなく、職員研修会を開催して担当外の教諭と共有する機会を設けた。飯山市出身の教諭にとっては、改めて地域やふるさとの良さを知る機会となった。郡外出身の教諭にとっても、飯山の歴史や風土・文化等を知る機会となり、他学年で指導する際の教材研究の一端となった。地域の一員として地域を学ぶことで、自信をもって子どもたちに地域のことを指導することができるようにと、有意義な研修会となった。

研修会の参加者の要望により、地域研修は次年度も計画・実施されることとなった。

(5) 今後の課題と取り組み (児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等)

- ・習字の経験が少ない3年生にとっては、当初の目標であった毛筆での表現はハードルが高かった。今回はたどり着けなかったが、児童がつくった作品を毛筆にして、再度ふるさとを振り返る機会を設けたいと考えている。
- ・3学年は飯山市の学習が主となるが、4学年は長野県全体から日本の都道府県の学習へと大きく広がる。児童の視野は外へ大きく広げられるが、そこでも改めて飯山市にも目を向けさせたい。学年が上がってふと振り返った時に、ふるさと飯山にしっかりと思いを向けられるような児童に育ててほしいと願う。